



イスラエルの回復のために祈りましょう

アルゼンチンのユダヤ人

人口:250,000 人

■ユダヤ人のカウボーイ(スペイン語で「ガウチョ」と呼ばれる)が、ロシアから初めてやって来たのは 1889 年のこと。彼らは、アルゼンチンの開拓史の中でも特筆すべき存在で、ロシアの貧困やユダヤ人虐殺から逃れてアルゼンチンに来たのである。彼らは、ヨーロッパのユダヤ人からの惜しみない資金援助によって土地を買い、また大きな放牧場の共同体を築き上げた。最も多い時には2万人にも及ぶユダヤ人が、このような放牧場で生活していたのである。しかし、放牧についての経験不足や、野外生活の苦難、イナゴによる被害、病気、隣人との衝突などがあり、彼らの多くは、より暮らしやすい都市での生活を求めた。そして首都として、また主要港として急成長しつつあったブエノスアイレスが、大多数のユダヤ人が暮らす都市となった。今日では、放牧場のカウボーイたちはもはやユダヤ人ではなく、彼らの雇い主がユダヤ人になっているのである。

■ユダヤ人の大部分は、ブエノスアイレスとその周辺に住んでいる。彼らの典型的な家は二階建てのレンガ造りで、しっくい塗りのものが多い。若者のほとんどは世俗的で、結婚相手についても自己流に選ぶのが一般的であり、しばしばカトリック信者と結ばれることもある。結婚式の半分以上は宗教儀式を別途に行わず、役所で行う民事の婚礼だけで済ませる、というものである。

■アルゼンチンにユダヤ人が初めて渡航したのは 16~17 世紀で、彼らの多くは、キリスト教への改宗を強制された「コンベルソ」と呼ばれる人たちだった。彼らの出身地のポルトガルとスペインでは、1492 年に 15 万人のユダヤ人を国から追放する、という出来事があったのである。これら初期のユダヤ人移民は異文化の社会に融合し、次第にユダヤ人としてのアイデンティティーを失ってしまった。

■1889 年から 1930 年にかけて、アルゼンチンは、その働き口の多さと開放的な移民政策のおかげで、米国に次いで東欧系ユダヤ人移民の人気を集めた。1930 年になると国内で失業者が増え、アルゼンチン政府も移民の受け入れに大きな制限を設け始めた。ちょうどヨーロッパで、ヒトラーがユダヤ人を攻撃する直前に、ユダヤ人にとってのアルゼンチン移住の門は閉ざされてしまったのである。

■第二次世界大戦以後、アルゼンチンはユダヤ人難民を受け入れるとともに、ドイツの戦犯にも国境を開放した。1960 年、ナチス戦犯アドルフ・アイヒマンが、ようやくアルゼンチンで逮捕された。アルゼンチンにはもともと反ユダヤ主義があったが、さらにナチスの存在がこれを増長し、特に社会の上流階級や軍の幹部に大きな影響が及んだと思われる。反ユダヤ主義は今も残る問題であり、特に軍事独裁者が力を持つときは、顕著にそれが見られる。

■北アフリカ、シリアやトルコのユダヤ人も、アルゼンチンに移住してきた。その中でユダヤ人の習慣をまだ守っている人は、セファルディ系、もしくはスペイン系のユダヤ教の信者であり、彼らは現在、ユダヤ人人口の約 15%を占めている。アルゼンチンのユダヤ人の大半は、中央・東ヨーロッパからの子孫で、アシケナジ系のユダヤ教を守っている。現在、彼らのほとんどがスペイン語を話し、ユダヤ人の伝統言語であるイディッシュ語やラディノ語は消滅しつつある。また、彼らは、産業、商業、政治や芸術などに携わることが多い。アルゼンチンは今、ナチス戦犯をかくまったことや反ユダヤ主義の跡をぬぐい去ろうと、新しいイメージを求めている。イスラエルとは良い関係を保っているが、国内の反ユダヤ過激集団は、いまだに活動している。メシヤニック・コングリゲーションは、少なくとも2つのグループがあって、定期的に集

会を開いている。


 祈りの課題

☆ユダヤ人に向けたメシアについての証しが、ユダヤ人を脅迫しているように、彼らを感じることはないように。

☆主が、クリスチャンのラジオ・テレビ番組を用いてくださり、メシアについての真理が、多くのアルゼンチンのユダヤ人に伝わるように。

☆彼らが「イエシュア(イエス)こそメシアである」という啓示を受けるように。

☆アルゼンチンのユダヤ人が神の召しを知り、主にある彼らの定められた道を歩むことができるように。

☆アルゼンチンの霊的要塞である偶像礼拝の霊、まじないの霊、ニュー・エイジ宗教の霊に立ち向かって。

☆この地における反ユダヤ主義の声が消え去るように。

☆アルゼンチンの教会が、反ユダヤ主義が台頭したときに、ユダヤ人共同体の背後に結集し、主の預言的な声として、これに立ち向かうことができるように。

